

報告 REPORT

「数学のチカラを社会のチカラに！」 ～数学甲子園応援レポート！

広報部 副部長 田中 知幸

今年も、数学甲子園が開催されました。

数学甲子園は今年で11回目の開催となる全国の中
高生が団体戦で数学の力を競う大会です。

(※数学甲子園公式サイト [https://www.su-gaku.net/
events/koshien/](https://www.su-gaku.net/events/koshien/))

日本公認会計士協会は昨年に引き続き、高校生を
対象とした公認会計士の魅力向上策として数学甲子
園（全国数学選手権大会）に協力しました。

大会の概要

予選は7月～8月頭にかけて全国主要都市14会場
において行われ、今年は過去最高の280校、639
チーム、2,595人が参加しました。そのうち、36校
が9月16日の本選（東京）に進出しました。

本選では、午前に数学の難問（なんと英語による問
題も！）にチームで挑戦しました（Math Battle）。中
高生が大学で学ぶ数学にチャレンジする問題や参加
者の正答率が10%を切るような難問もあり、苦戦す
る問題ばかりでした。

午後はプレゼンテーションで競い合いました。本
選に出場するチームは、予め（8月30日（木）～9月
1日（土））与えられた課題に沿って問題と模範解
答をチームで創作し（Math Create）、午前のMath
Battleの得点の上位6チームがこれをプレゼンテー
ションしました（Math Live）。残りのチームはその
プレゼンテーションに対する質疑応答をし、その内
容が評価されました。

数学の問題を解く力だけではなく、「問題解決
力」「チームワーク力」「創作力」「プレゼンテー
ション力」などの総合力が問われました。

協会の参加

審査員	関根愛子会長が本選の審査員と して参加。
特別賞の授与	公認会計士に求められる「チー ムワーク」「着眼力」「推察 力」に秀でたチームに対して 「特別賞：日本公認会計士協会 賞」を授与。
CPAカフェ	本選会場と同じ2階にあるテラ スルームにて「CPAカフェ」 を展開し、公認会計士の魅力や 協会の活動についての様々な情 報発信を行う。
記念品	記念品としてタオルを配布。 →これが、後述の表彰式の出来 事につながります。

予選の様子

関西（大阪・京都・神戸）では、記録的な猛暑の
7月31日に予選が開催されました。

予選は、20問の問題を60分で解答します。

会場は大学入試や公認会計士試験の試験会場のよ
うな雰囲気、大阪・奈良・和歌山から約270人、
近畿地区から約500人も集まりました。

予選はまさに試験会場ですが、広報部の目線から
すれば、優秀な中高生500人やその引率の先生等と
接点を持てる絶好のチャンスです。当日の参加者等
には、会計士業界を紹介するパンフレットなどを配
布し、情報を発信しました。予選の現場に訪れて、
情報発信の仕方についての気づきもあり、本部に積
極的に提案しながらより効果的なアプローチを探り
たいと思います。例えば予選は毎年夏真っ盛りの時

期なので、協会のホームページのQRコードを印字したうちわを配布することも検討したいと思います。

CPAカフェの様子と反応

本選のCPAカフェには、大勢の参加選手の中高生や引率の先生や父兄の皆様にお越し頂きました。予選からの広報の効果もあり、会計士という名前は知ってい



るといふ反応は多く聞かれました。ただ、その名前の認知に留まっていることが多く思えたため、私は用意されていたパンフレットを利用して、これまでの協会の活動（ハロー！会計や制度説明会）を紹介しながら、情報を提供しました。

先生の中には、協会が学校へ出向く活動に関心を示す先生もおられました。そのような先生が自校に戻るとその先生が自校で説明するのですが、その際に説明しやすいよう行き届いた説明を心掛けました。

本選の結果

①林家久蔵賞

西大和学園 しゅらばチーム（奈良県）に、司会者である林家久蔵氏からの特別賞（林家久蔵賞）が与えられました。実は、



同チームは前述した協会作成のタオルを一日中頭に巻きながら問題に取り組んでくれており、その参加賞を大切に活用した姿に司会者の心が惹かれ、またその姿に会場内でひと際目立っていたことから受賞に至りました。もちろん我々協会としても協会作成のタオルを通じた受賞で大変喜ばしい受賞でした。しかも近畿会の管轄区域からのチームの受賞で、私の喜びもひとしおでした。

②日本公認会計士協会賞

本部広報委員会の委員の意見で、チームワークと質問内容やその方法を高く評価された甲陽学院高等学校チームgauss（兵庫県）に与えられました。思わぬ公認会計士協会からの受賞に参加者ご本人も驚きながら喜んで頂きました。



なお、優勝は本選でバランスよく得点

した栄光学園高等学校 数学界のTouristチーム（神奈川県）に与えられました。



この活動の意義と今後の協会活動について

一見、数学甲子園と公認会計士と直接つながりが見えないように思えますが、会計・監査の対象は数字であり、数的センスが求められています。さらに会計帳簿の電子化が進み、ビックデータを扱うようになると、ますますその分析力が問われ、基礎的な素養として統計学等の数学の素養も求められてきています。

業界全体としてこうしたニーズにこたえるには、我々会員自体の底上げも必要ですが、こうした素養を備えた人材の確保も求められています。

業界の発展のためにも、こうした優秀な人材の確保や業界自体の認知度向上は必要です。

せっかくの数学甲子園という接点ができているので、それを有意義に活用できるよう、近畿会広報部としてもますます活用して広報活動を努めてまいりたいと思います。